

## 6 個別調査票による重症事例の調査結果

### (1) 虐待による重症事例の回答状況

平成 31 年 4 月 1 日から 6 月 30 日までの間に全国の児童相談所が児童虐待相談として受理した事例の中で、同年 9 月 1 日時点までに、「身体的虐待」等による生命の危険に関わる受傷、「養育の放棄・怠慢」のために衰弱死の危険性があった事例（心中未遂を除く。）については 13 例（13 人）の回答を得ており、その結果を以下のとおり取りまとめた。

表 2-1 重症事例数及び人数

区分	心中未遂以外の重症の虐待
事例数	13
人数	13

### (2) 重症となった子どもの特性

#### ① 子どもの性別

子どもの性別について、「男」9 人、「女」4 人であった。

表 2-2-1 受傷した子どもの性別

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
男	9
女	4
計	13

② 子どもの年齢

重症となった受傷時の子どもの年齢は、「0歳」が10人と最も多かった。さらに、受傷した0歳児を月齢別にみると、月齢「0か月」、「3か月」がそれぞれ3人であった。

表2-2-2-1 受傷時点の子どもの年齢

区分	心中未遂以外の重症の虐待(13人)
	人数
0歳	10
1歳	0
2歳	0
3歳	0
4歳	0
5歳	0
6歳	1
7歳	0
8歳	1
9歳	0
10歳	0
11歳	1
12歳	0
13歳	0
14歳	0
15歳	0
16歳	0
17歳	0
計	13

表2-2-2-2 受傷した0歳児の月齢

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
0か月	3
1か月	1
2か月	0
3か月	3
4か月	0
5か月	0
6か月	2
7か月	1
8か月	0
9か月	0
10か月	0
11か月	0
計	10

### (3) 虐待の種類と加害の状況

#### ① 重症の原因となった虐待の種類

##### ア 主な虐待の種類

重症となった受傷の原因となった虐待の種類は、「身体的虐待」が11人、「ネグレクト」が2人であった。

子どもの年齢が3歳未満においては、「身体的虐待」が9人、「ネグレクト」が1人であった。3歳以上においては、「身体的虐待」が2人、「ネグレクト」が1人であった。

表2-3-1-1 重症となった主な虐待の種類

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
身体的虐待	11
ネグレクト	2
心理的虐待	0
性的虐待	0
不明	0
計	13

表2-3-1-2 主な虐待の種類（3歳未満と3歳以上）

区分	3歳未満	3歳以上
	人数	人数
身体的虐待	9	2
ネグレクト	1	1
心理的虐待	0	0
性的虐待	0	0
不明	0	0
計	10	3

イ ネグレクトによる重症事例の内容

ネグレクトによる重症事例の内容は「家に残したまま外出する、車中に置き去りにするなど子どもの健康・安全への配慮を怠る」、「必要な医療を受けさせない（医療ネグレクト）」がそれぞれ2人であった。

表2-3-1-3 重症となったネグレクトの種類（複数回答）

区分	心中未遂以外の重症の虐待(2人)
	人数
家に残したまま外出する、車中に置き去りにするなど子どもの健康・安全への配慮を怠る	2
食事を与えないなどの養育放棄	1
遺棄	0
祖父母、きょうだい、保護者の交際相手等による虐待を見過ごす	0
必要な医療を受けさせない(医療ネグレクト)	2
不明	0

② 直接の受傷の要因

子どもの直接の受傷の原因は、「頭部外傷」が6人で最も多く、全て3歳未満であった。

表 2-3-2-1 直接の受傷の要因

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
頭部外傷	6
胸部外傷	0
腹部外傷	0
外傷性ショック	0
頸部絞扼による窒息	1
頸部絞扼以外による窒息	1
溺水	1
熱傷	0
車中放置による熱中症・脱水	0
中毒(火災によるものを除く)	0
出血性ショック	0
低栄養による衰弱	0
脱水	0
凍傷	0
火災による熱傷・一酸化炭素中毒	0
病気	0
その他	4
小計	13
不明	0
計	13

表 2-3-2-2 直接の受傷の要因（3歳未満と3歳以上）

区分	3歳未満	3歳以上	不明
	人数	人数	人数
頭部外傷	6	0	0
胸部外傷	0	0	0
腹部外傷	0	0	0
外傷性ショック	0	0	0
頸部絞扼による窒息	0	1	0
頸部絞扼以外による窒息	1	0	0
溺水	1	0	0
熱傷	0	0	0
車中放置による熱中症・脱水	0	0	0
中毒（火災によるものを除く）	0	0	0
出血性ショック	0	0	0
低栄養による衰弱	0	0	0
脱水	0	0	0
凍傷	0	0	0
火災による熱傷・一酸化炭素中毒	0	0	0
病気	0	0	0
その他	2	2	0
小計	10	3	0
不明	0	0	0
計	10	3	0

③ 確認された虐待の期間

子どもに対する虐待が確認された期間については、「～1か月以内」が8例であった。

表2-3-3 確認された虐待の期間

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
～1か月以内	8
1か月～6か月以内	0
6か月以上	3
不明	2
計	13

④ 重症の受傷時の虐待以前に確認された虐待

重症の受傷時以前に確認された虐待について、「なし」が9人、「あり」が3人であった。「あり」の事例における虐待の種類（複数回答）は、「ネグレクト」が2人であった。

表2-3-4 重症の受傷時の虐待以前に確認された虐待の有無（複数回答）

区分		人数
なし		9
あり		3
内訳 (再掲) (複数回答)	身体的虐待	0
	ネグレクト	2
	心理的虐待	1
	性的虐待	0
	不明	0
不明		1
計		13

⑤ 主たる加害者

主たる加害者については、心中未遂以外の重傷の虐待では、「実母」が8人、「実父」が4人であった。

表2-3-5-1 主たる加害者

区分		心中未遂以外の重症の虐待
		人数
実母		8
実父		4
養母		0
養父		0
継母		0
継父		0
実母の交際相手		0
実父の交際相手		0
母方祖母		0
父方祖母		0
母方祖父		0
父方祖父		0
その他		0
実母と	実父	1
	養父	0
	継父	0
	実母の交際相手	0
	その他	0
小計		13
不明		0
計		13

表 2-3-5-2 主たる加害者（3歳未満と3歳以上）

区分		3歳未満	3歳以上
		人数	人数
実母		5	3
実父		4	0
養母		0	0
養父		0	0
継母		0	0
継父		0	0
実母の交際相手		0	0
実父の交際相手		0	0
母方祖母		0	0
父方祖母		0	0
母方祖父		0	0
父方祖父		0	0
その他		0	0
実母と	実父	1	0
	養父	0	0
	継父	0	0
	実母の交際相手	0	0
	その他	0	0
小計		10	3
不明		0	0
計		10	3

⑥ 加害の動機

加害の主な動機について、「泣き止まないことにいらだったため」が3人、「保護を怠ったことによる重症」、「アルコール又は薬物依存に起因した精神症状による行為」がそれぞれ1人であった。

表2-3-6 加害の動機

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
しつけのつもり	0
子どもがなつかない	0
パートナーへの愛情を独占された等、子どもに対する嫉妬心	0
パートナーへの怒りを子どもに向ける	0
慢性の疾患等の苦しみから子どもを救おうという主観的意図	0
子どもの暴力などから身を守るため	0
MSBP(代理ミュンヒハウゼン氏症候群)	0
保護を怠ったことによる重症	1
子どもの存在の拒否・否定	0
泣きやまないことにいらだったため	3
アルコール又は薬物依存に起因した精神症状による行為	1
依存系以外に起因した精神症状による行為(妄想など)	0
その他	4
小計	9
不明	4
計	13

⑦ 発生場所

重症となった虐待が発生した場所は、「自宅」が 11 人、「自宅以外」が 1 人であった。

表 2-3-7 重症となった虐待の発生場所

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
自宅	11
自宅以外	1
不明	1
計	13

⑧ 発覚の経緯

重症となった虐待の発覚の経緯は、「虐待者が自ら救急車を要請または病院に連れて行って」が6人で最も多かった。「虐待者でない親や家族その他の同居者が救急車を要請または病院に連れて行って」が3人であった。

表2-3-8 重症となった虐待の発覚の経緯

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
虐待者が自ら救急車を要請または病院に連れて行って	6
虐待者でない親や家族その他の同居者が救急車を要請または病院に連れて行って	3
近隣住民・知人が救急車を要請または病院に連れて行って	0
虐待者自らが警察に通報あるいは出頭して	0
虐待者でない家族その他の同居者が警察に通報して	0
近隣住民・知人が警察に通報して	0
虐待者が自ら児童相談所に相談又は通告して	0
虐待者でない親や家族その他の同居者が児童相談所に相談または通告して	0
近隣住民・知人が児童相談所に相談または通告して	0
その他	4
不明	0
計	13

#### (4) 子どもの生育歴

##### ① 妊娠期・周産期における問題

妊娠期・周産期の問題については、「予期しない妊娠／計画していない妊娠」が5人で最も多かった。次いで「妊婦健診未受診」が4人であった。

表2-4-1 妊娠期・周産期の問題（複数回答）

区分	心中未遂以外の重症の虐待(13人)		
	あり	なし	不明
	人数	人数	人数
切迫流産・切迫早産	1	9	3
妊娠高血圧症候群(妊娠中毒症)	1	9	3
喫煙の常習	1	10	2
アルコールの常習	1	10	2
違法薬物の使用／薬物の過剰摂取等	1	10	2
マタニティブルーズ	0	9	4
予期しない妊娠／計画していない妊娠	5	6	2
若年(10代)妊娠	2	10	1
お腹をたたく等の墮胎行為	1	10	2
母子健康手帳の未発行	3	10	0
妊婦健診未受診	4	8	1
その他(妊娠期の母体側の問題)	0	11	2
遺棄	0	12	1
墜落分娩	2	10	1
飛び込み出産	1	11	1
帝王切開	1	11	1
医療機関から連絡	3	10	0
その他(出産時の母体側の問題)	0	10	3
低体重	1	11	1
多胎	1	11	1
新生児仮死	1	10	2
その他の疾患・障害	0	11	2
出生時の退院の遅れによる母子分離	3	9	1
NICU入院	3	9	1

② 乳幼児健診及び予防接種

乳幼児健診の受診状況について、「3～4か月児健診」、「1歳6か月児健診」、「3歳児健診」は年齢的に非該当及び不明を除き、全て「受診済み」であった。

予防接種の接種状況については、年齢的に非該当及び不明を除き、「B型肝炎」、「BCG」の未接種者が5人であった。

表2-4-2 乳幼児健診及び予防接種の受診・接種の有無

区分	心中未遂以外の重症の虐待(13人)			
	受診済み	未受診	年齢的に非該当	不明
	人数	人数	人数	人数
3～4か月児健診	6	0	7	0
1歳6か月児健診	3	0	10	0
3歳児健診	3	0	10	0
Hib	6	0	5	2
肺炎球菌	7	0	5	1
B型肝炎	5	5	0	3
ジフテリア・百日咳・破傷風・不活化ポリオ(4種混合)	5	0	6	2
BCG	5	5	0	3
麻疹・風疹混合(MR)	3	0	9	1
水痘	2	0	9	2
日本脳炎	2	0	9	2

③ 子どもの疾患・障害等

子どもの疾患・障害等について、「身体疾患」、「障害」があった事例はなく、「発達の問題（発達障害、自閉症）など」、「身体発育の問題（極端な痩せ、身長が低いなど）」がそれぞれ1人であった。

表2-4-3 子どもの疾患・障害等の有無等（複数回答）

区分		心中未遂以外の重症の虐待(13人)			
		あり	なし	不明	疑い
		人数	人数	人数	人数
身体疾患		0	12	1	0
障害		0	13	0	0
障害ありの内訳	身体障害	0	0	0	0
	手帳の有無	0	0	0	0
	知的障害	0	0	0	0
	手帳の有無	0	0	0	0
発達の問題 (発達障害、自閉症など)		1	9	1	2
身体発育の問題 (極端な痩せ、身長が低いなど)		1	12	0	0

④ 子どもの情緒・行動上の問題等

子どもの情緒・行動上の問題等について、「なし」が11人、「あり」が2人であった。

表2-4-4 子どもの情緒・行動上の問題等（複数回答）

区分		心中未遂以外の重症の虐待(13人)
		人数
なし		11
あり		2
内訳 (再掲) (複数回答)	ミルクの飲みムラ	0
	激しい泣き	0
	夜泣き	0
	食事の拒否	0
	夜尿	0
	多動	0
	衝動性	1
	かんしゃく	0
	自傷行為	0
	性器いじり	0
	指示に従わない	0
	なつかない	0
	無表情、表情が乏しい	0
	固まってしまう	0
	盗癖	0
	虚言癖	0
	不登校	1
その他	1	
小計		13
不明		0
計		13

⑤ 養育機関・教育機関の所属

子どもの養育機関・教育機関等の所属について、所属「あり」が2人であり、長期欠席（1か月以上）は1人であった。

表2-4-5-1 子どもの養育機関・教育機関等の所属

区分		心中未遂以外の重症の虐待
		人数
なし		11
あり		2
内訳 (再掲)	認可保育所	0
	認可外保育所	0
	認定こども園	0
	幼稚園	0
	小学校	2
	中学校	0
	高等学校	0
	特別支援学校	0
	その他	0
小計		13
不明		0
計		13

表2-4-5-2 養育機関・教育機関の所属ありの場合の長期欠席の有無

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
長期欠席(1か月以上) なし	1
長期欠席(1か月以上) あり	1
小計	2
不明	0
計	2

⑥ 子どもの施設等への入所経験

子どもの施設等への入所経験は「あり」が2人であった。

表2-4-6 子どもの施設等への入所経験（複数回答）

区分		心中未遂以外の重症の虐待
		人数
なし		11
あり		2
内訳 (再掲) (複数回答)	一時保護所	2
	児童養護施設(一時保護委託を含む)	0
	乳児院(一時保護委託を含む)	0
	病院、診療所(一時保護委託を含む)	0
	児童自立支援施設	0
	障害児入所施設	0
	児童心理治療施設	0
	母子生活支援施設	0
	婦人相談所	0
	自立援助ホーム	0
	少年院	0
	民間シェルター	0
	里親	0
	ファミリーホーム	0
その他	0	
小計		13
不明		0
計		13

## (5) 養育環境

### ① 養育者の世帯の状況

養育者の世帯の状況について、「実父母」が8例と最も多く、次いで「一人親（離婚）」が3例であった。

表2-5-1 養育者の世帯の状況

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
実父母	8
一人親(離婚)	3
一人親(未婚)	2
一人親(死別)	0
一人親(別居)	0
再婚	0
養父母	0
内縁関係	0
その他	0
不明	0
計	13

② 祖父母との同居の状況

祖父母との同居状況について、祖父母との同居「あり」が2例で、その内訳は「母方祖母同居」と「母方祖父母同居」がそれぞれ1例であった。

表2-5-2 祖父母との同居状況

区分		心中未遂以外の重症の虐待	
		例数	
なし		11	
あり		2	
内訳 (再掲)	母方祖母同居	1	
	母方祖父同居	0	
	母方祖父母同居	1	
	父方祖母同居	0	
	父方祖父同居	0	
	父方祖父母同居	0	
小計		13	
不明		0	
計		13	

③ 実父母、祖父母以外の者との同居の状況

実父母、祖父母以外の者との同居の状況について、同居「あり」が2例で、その同居者はいずれも「その他」であった。

表2-5-3 実父母、祖父母以外の者との同居の状況

区分		心中未遂以外の重症の虐待	
		例数	
なし		11	
あり		2	
内訳 (再掲)	母の交際相手	0	
	父の交際相手	0	
	母の友人	0	
	父の友人	0	
	その他	2	
小計		13	
不明		0	
計		13	

④ 子どもの受傷時における実父母の年齢

子どもの受傷時における実父母の年齢について、実母は「25～29歳」が4例、次いで「19歳以下」が3例であった。実父は「40歳以上」が3例であった。

表2-5-4 子どもの受傷時における実父母の年齢

区分		心中未遂以外の重症の虐待	
		実母	実父
		例数	例数
いない		0	3
いる		13	9
内訳 (再掲)	19歳以下	3	0
	20歳～24歳	1	2
	25歳～29歳	4	2
	30歳～34歳	2	1
	35歳～39歳	2	1
	40歳以上	1	3
	年齢不明	0	0
小計		13	12
不明		0	1
計		13	13

⑤ 子どもの受傷時における加害者の年齢

子どもの受傷時における加害者の年齢について、加害者が実母である場合には、実母の年齢は「25～29歳」が3例、次いで「19歳以下」、「30歳～34歳」がそれぞれ2例であった。加害者が実父である場合には、実父の年齢は「20歳～24歳」、「25歳～29歳」がそれぞれ2例であった。

表2-5-5 子どもの受傷時における加害者の年齢

区分	実母	実父	実父母以外加害者
	例数	例数	例数
19歳以下	2	0	0
20歳～24歳	0	2	0
25歳～29歳	3	2	0
30歳～34歳	2	0	0
35歳～39歳	1	1	0
40歳以上	1	0	0
年齢不明	0	0	0
計	9	5	0

⑥ 養育者（実父母）の心理的・精神的問題等

養育者（実母）の心理的・精神的問題等について、「衝動性」、「攻撃性」、「養育能力の低さ」がそれぞれ3例であった。

養育者（実父）の心理的・精神的問題等について、「育児不安」、「衝動性」、「DVを行っている」、「養育能力の低さ」がそれぞれ1例であった。

表2-5-6 養育者（実父母）の心理的・精神的問題等（複数回答）

区分	実母(13例)			実父(9例)		
	あり	なし	不明	あり	なし	不明
	例数	例数	例数	例数	例数	例数
育児不安	2	10	1	1	7	1
マタニティーブルーズ	0	13	0	0	0	0
産後うつ	0	12	1	0	0	0
知的障害	1	11	1	0	8	1
精神障害 (医師の診断によるもの)	2	11	0	0	8	1
身体障害	0	13	0	0	8	1
その他の障害	0	13	0	0	8	1
アルコール依存	1	12	0	0	7	2
薬物依存	0	13	0	0	8	1
ギャンブル依存	1	12	0	0	8	1
衝動性	3	9	1	1	7	1
攻撃性	3	9	1	0	8	1
怒りのコントロール不全	1	11	1	0	8	1
うつ状態	2	10	1	0	8	1
躁状態	1	12	0	0	8	1
感情の起伏が激しい	2	10	1	0	8	1
高い依存性	2	11	0	0	8	1
幻覚	0	13	0	0	8	1
妄想	0	13	0	0	8	1
DVを受けている	1	12	0	0	8	1
DVを行っている	0	13	0	1	7	1
自殺未遂の既往	2	11	0	0	8	1
養育能力の低さ	3	9	1	1	7	1
日本語でのコミュニケーションが難しい (日本語を母国語としていない)	0	13	0	0	9	0

⑦ 世帯の家計を支えている主たる者

世帯の家計を支えている主たる者について、「実父」が8例、「実母」が3例、「母方祖母」、「母方祖父」がそれぞれ1例であった。

表2-5-7 家計を支えている主たる者

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
実母	3
実父	8
継母	0
継父	0
養母	0
養父	0
母方祖母	1
母方祖父	1
父方祖母	0
父方祖父	0
母の交際相手	0
父の交際相手	0
その他	0
小計	13
不明	0
計	13

⑧ 子どもの住居の状況

子どもの住居の状況について、「集合住宅（賃貸）」が6例であり、次いで「公営住宅」が3例であった。

表2-5-8 子どもの住居の状況

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
一戸建て住宅(所有)	2
一戸建て住宅(賃貸)	1
集合住宅(所有)	0
集合住宅(賃貸)	6
公営住宅	3
他人の家に同居	0
母子生活支援施設	1
民間シェルター	0
定住地なし	0
小計	13
不明	0
計	13

⑨ 家庭の経済状況

家庭の経済状況について、「不明」を除き、「市町村民税課税世帯（年収500万円未満）」が5例、次いで「年収500万円以上」が3例であった。

表2-5-9 家庭の経済状況

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
生活保護世帯	1
市町村民税非課税世帯 (所得割、均等割ともに非課税)	0
市町村民税課税世帯 (所得割のみ非課税)	1
市町村民税課税世帯 (年収500万円未満)	5
年収500万円以上	3
小計	10
不明	3
計	13

- ⑩ 子どもの受傷時における実父母の就業状況  
 子どもの受傷時における実父母の就業状況について、実母は「無職」が9例、実父は「フルタイム」が8例であった。

表2-5-10 子どもの受傷時における実父母の就業状況

区分	心中未遂以外の重症の虐待	
	実母	実父
	例数	例数
無職	9	0
フルタイム	1	8
パート	3	0
小計	13	8
不明	0	1
計	13	9

- ⑪ 子どもが出生してからの転居回数  
 子どもが出生してからの転居回数について、転居「なし」が9例、転居「3回」が3例であった。

表2-5-11 子どもが出生してからの転居回数

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
なし	9
1回	0
2回	1
3回	3
4回	0
5回以上	0
小計	13
不明	0
計	13

⑫ 家庭の地域社会との接触状況

子どもの家庭における地域社会との接触状況について、「不明」を除き、「ふつう」が9例、次いで「乏しい」が3例であった。

表2-5-12 家庭の地域社会との接触状況

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
ほとんど無い	0
乏しい	3
ふつう	9
活発	0
小計	12
不明	1
計	13

⑬ 養育の支援の状況

主たる養育者への子どもの養育の支援の状況について、実母の場合、10例が支援「あり」であり、支援者について（複数回答）は、「親」が9例、次いで「配偶者（パートナー）」が6例であった。

実父の場合は、6例が支援「あり」であり、支援者について（複数回答）は、「親」が4例、次いで「配偶者（パートナー）」、「配偶者の親」がそれぞれ3例であった。

表2-5-13 養育の支援の状況（複数回答）

区分		心中未遂以外の重症の虐待	
		実母	実父
		例数	例数
なし		3	2
あり		10	6
内訳 (再掲) (複数回答)	配偶者(パートナー)	6	3
	親	9	4
	配偶者の親	4	3
	虐待者のきょうだい	3	1
	配偶者のきょうだい	0	2
	近所の人	0	1
	職場の友人・知人	2	2
	保育所などの職員	1	1
	ベビーシッター	0	1
	行政の相談担当課	3	2
	職場以外の友人	3	2
	子育てサークル	0	1
	親類	2	2
	その他	0	0
小計		13	8
不明		0	1
計		13	9

⑭ 行政機関等による子育て支援事業の利用状況

行政機関等による子育て支援事業の利用状況について、利用「なし」が6例、「あり」が7例であった。利用されている事業（複数回答）は、「乳児家庭全戸訪問事業」が6例であり、次いで「養育支援訪問事業」2例であった。

表2-5-14 行政機関等による子育て支援事業の利用状況（複数回答）

区分		心中未遂以外の重症の虐待
		例数
なし		6
あり		7
内訳 (再掲) (複数回答)	利用者支援事業	0
	地域子育て支援拠点事業	0
	乳児家庭全戸訪問事業	6
	訪問時期 生後1か月以内	1
	生後1から2か月の間	5
	生後2から3か月の間	0
	生後3から4か月の間	0
	生後4か月以降	0
	養育支援訪問事業	2
	子育て短期支援事業	0
	ファミリー・サポートセンター事業	0
	一時預かり事業	0
	延長保育事業	0
	病児保育事業	0
	放課後児童健全育成事業	1
保育所入所	0	
小計		13
不明		0
計		13

## (6) きょうだい

### ① きょうだいの状況

受傷した子どものきょうだいの状況について、きょうだいが「なし（ひとりっ子）」が6例、次いで「1人（2人きょうだい）」が4例であった。

表2-6-1 きょうだいの状況

区分	心中未遂以外の重症の虐待(13例)
	例数
なし(ひとりっ子)	6
1人(2人きょうだい)	4
2人(3人きょうだい)	2
3人(4人きょうだい)	1
4人(5人きょうだい)	0
5人(6人きょうだい)	0
小計	13
不明	0
計	13

### ② きょうだいの特性

きょうだいの性別について、「男」が5人、「女」が6人であった。また、きょうだいの年齢について、「2歳」、「4歳」、「7歳」がそれぞれ2人であった。

表2-6-2-1 きょうだいの性別

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
男	5
女	6
計	11

表 2-6-2-2 きょうだいの年齢

区分	心中未遂以外の重症の虐待(11人)
	人数
0歳	1
1歳	1
2歳	2
3歳	0
4歳	2
5歳	0
6歳	1
7歳	2
8歳	0
9歳	0
10歳	1
11歳	0
12歳	0
13歳	1
14歳	0
15歳	0
16歳	0
17歳	0
18歳	0
19歳	0
20歳以上	0
計	11

- ③ 子どもの受傷時におけるきょうだいの同居の状況  
 子どもの受傷時におけるきょうだいの同居の状況について、同居「あり」が10人であり、「なし」が1人であった。

表2-6-3 子どもの受傷時におけるきょうだいの同居の状況

区分	心中未遂以外の重症の虐待(11人)
	人数
あり	10
なし	1
小計	11
不明	0
計	11

- ④ きょうだいの養育機関・教育機関の所属  
 きょうだいの養育機関・教育機関の所属は「小学校」、「なし」がそれぞれ4人であった。

表2-6-4 きょうだいの養育機関・教育機関の所属

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
なし	4
保育所	1
認定こども園	0
幼稚園	0
小学校	4
中学校	0
高等学校	0
大学	0
特別支援学校	0
その他	1
小計	10
不明	1
計	11

⑤ きょうだい虐待を受けた経験

きょうだい虐待を受けた経験について、経験「あり」が3人であり、その内訳は全て「ネグレクト」であった。

表2-6-5 きょうだい虐待を受けた経験

区分		心中未遂以外の重症の虐待
		人数
あり		3
内訳 (再掲)	身体的虐待	0
	ネグレクト	3
	心理的虐待	0
	性的虐待	0
なし		5
小計		8
不明		3
計		11

⑥ きょうだいに対する児童相談所の関与

子どもの受傷時以前のきょうだいに対する児童相談所の関与について、関与「あり」が3人、「なし」が7人であった。

表2-6-6 きょうだいに対する児童相談所の関与

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
あり	3
なし	7
小計	10
不明	1
計	11

- ⑦ きょうだいに対する市町村の関与  
 子どもの受傷時以前のきょうだいに対する市町村の関与について、関与「あり」が6人、「なし」が4人であった。

表2-6-7 きょうだいに対する市町村の関与

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
あり	6
なし	4
小計	10
不明	1
計	11

- ⑧ 子どもの受傷時におけるきょうだいへの対応  
 子どもの受傷時におけるきょうだいへの対応について、対応「なし」が7例、「あり」が6例であった。行った対応内容（複数回答）は、「安全確認」が6例、「親からの分離」が3例であった。

表2-6-8 子どもの受傷時におけるきょうだいへの対応

区分		心中未遂以外の重症の虐待
		例数
なし		7
あり		6
内訳 (再掲) (複数回答)	安全確認	6
	面接	1
	親からの分離	3
	心理的ケア	1
	その他	1
	不明	0
小計		13
不明		0
計		13

⑨ 子どもの受傷後のきょうだいの居所（調査票記入時点）

子どもの受傷後におけるきょうだいの居所について、「自宅」が8人であり、「児童養護施設」が2人であった。

表2-6-9 子どもの受傷後のきょうだいの居所

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
自宅	8
祖父母宅	0
乳児院	0
児童養護施設	2
母子生活支援施設	0
民間シェルター	0
その他	0
小計	10
不明	1
計	11

## (7) 関係機関の関与・対応状況

### ① 虐待通告の状況（重症に至った本事例の発覚に伴う通告を含む）

11 例で重症となった受傷に関する虐待通告がされていた。重症となった受傷以前の通告があったのは2例であった。

表 2-7-1 虐待通告の有無と通告回数

区分		心中未遂以外の重症の虐待	
		例数	
なし		0	
あり		13	
内訳	重症となった受傷に関する通告	11	
	重症となった受傷以前の通告	1回	1
		2回	1
		3回	0
		4回	0
		5回	0
小計		13	
不明		0	
計		13	

### ② 児童相談所の関与（重症に至った本事例の発覚前に限る）

児童相談所の関与の状況について、児童相談所が関与した事例は3例であった。

表 2-7-2 児童相談所の関与の有無

区分	心中未遂以外の重症の虐待	
	例数	
あり	3	
なし	10	
不明	0	
計	13	

③ 市町村（虐待対応担当部署）の関与（重傷に至った本事例の発覚前に限る）

ア 市町村（虐待対応担当部署）の関与状況

市町村の虐待対応担当部署の関与状況について、関与「あり」が2例、「なし」11例であった。また、年齢別では、3歳未満、3歳以上で関与「あり」がそれぞれ1例であった。

表2-7-3-1 市町村（虐待対応担当部署）の関与の有無

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
あり	2
なし	11
小計	13
不明	0
計	13

表2-7-3-2 市町村（虐待対応担当部署）の関与の有無（3歳未満と3歳以上）

区分	3歳未満	3歳以上
	例数	例数
あり	1	1
なし	9	2
小計	10	3
不明	0	0
計	10	3

- イ 市町村（虐待対応担当部署）における相談種別  
市町村の虐待対応担当部署が関与した事例における相談種別（複数回答）について、「虐待以外の養護相談」、「障害相談」がそれぞれ1例であった。

表2-7-3-3 市町村（虐待対応担当部署）における相談種別（複数回答）

区分	心中未遂以外の重症の虐待(2例)
	例数
虐待相談	0
虐待以外の養護相談	1
障害相談	1
非行相談	0
育成相談	0
保健相談	0
その他	0

- ④ その他の関係機関の関与の状況（重症に至った本事例の発覚前に限る）  
 児童相談所と市町村（虐待対応担当部署）を除いた、その他の関係機関の関与の状況について、関与があったものの虐待の認識を持たずに対応していた「関与あり／虐待の認識なし」の事例は、「市町村の母子保健担当部署（保健センター等）」が8例であった。
- また、虐待の認識がありながら関与していた「関与あり／虐待の認識あり」の事例は、「市町村の母子保健担当部署」、「養育機関・教育機関」、「医療機関」がそれぞれ1例であった。

表2-7-4 その他の関係機関の関与状況（複数回答）

区分	心中未遂以外の重症の虐待(13例)			
	関与なし	関与あり		不明
		虐待の認識なし	虐待の認識あり	
	例数	例数	例数	例数
福祉事務所	12	1	0	0
家庭児童相談室	12	1	0	0
民生児童委員	11	0	0	2
保健所	12	0	0	1
市町村の母子保健担当部署 （保健センター等）	4	8	1	0
養育機関・教育機関	9	3	1	0
医療機関	9	3	1	0
助産師	11	0	0	2
警察	13	0	0	0
婦人相談所	12	1	0	0
配偶者暴力相談支援センター	12	0	0	1

⑤ 関係機関間の連携状況（重症に至った本事例の発覚前に限る）

関係機関間の連携状況について、連携「あり」と回答のあった事例は7例であった。連携の状況については、「まあまあ取れていた」が3例であり、「あまりとれていなかった」が2例であった。

表 2-7-5 関係機関間の連携状況

区分		心中未遂以外の重症の虐待
		例数
なし		6
あり		7
内訳 (再掲)	よく取れていた	1
	まあまあ取れていた	3
	あまり取れていなかった	2
	ほとんど取れていなかった	1
小計		13
不明		0
計		13

## (8) 要保護児童対策地域協議会（子どもを守る地域ネットワーク）

### ① 重症事例発生地域における要保護児童対策地域協議会の構成機関

重症事例の発生した地域に設置された要保護児童対策地域協議会の構成機関について、「児童相談所」、「市町村担当課」、「警察」は全てのその構成機関となっており、「保健センター」、「主任児童員」は12例でその構成機関となっていた。

表2-8-1 重症事例発生地域における要保護児童対策地域協議会の構成機関（複数回答）

区分	心中未遂以外の重症の虐待(13例)
	例数
児童相談所	13
市町村担当課	13
福祉事務所	11
児童家庭支援センター	9
保健所	6
保健センター	12
医療機関	11
保育所	11
認定こども園	6
認可外保育施設	1
幼稚園	10
小学校	10
中学校	10
高等学校	3
主任児童委員	12
警察	13
裁判所	7
弁護士	9
民間団体	7
教育委員会	9
児童館	0
児童養護施設などの児童福祉施設	11
社会福祉協議会	11
婦人相談所	4
配偶者暴力支援センター	4
婦人保護施設	3
その他	4

- ② 重症事例発生地域における要保護児童対策地域協議会の実施状況  
重症事例の発生した地域に設置された要保護児童対策地域協議会の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの実施状況について、「個別ケース検討会議」を全ての地域において実施していた。

表2-8-2 重症事例発生地域における要保護児童対策地域協議会の実施状況

(平成31年4月1日から令和元年3月31日までの実施状況)

区分	心中未遂以外の重症の虐待(13例)	
	実施した	実施していない
	例数	例数
代表者会議	12	1
実施した場合の回数		/
1回	7	
2~3回	5	
4~5回	0	
6~10回	0	
11~15回	0	
16回以上	0	
不明	0	
実務者会議	12	1
実施した場合の回数		/
1回	0	
2~3回	3	
4~5回	0	
6~10回	1	
11~15回	4	
16~20回	0	
21回以上	4	
不明	0	
個別ケース検討会議	13	0
実施した場合の回数		/
5回以下	0	
6~10回	1	
11~20回	2	
21~30回	1	
31~40回	0	
41回以上	4	
100回以上	5	
不明	0	

③ 重症事例発生地域における進行管理会議の実施状況

重症事例の発生した地域の要保護児童対策地域協議会の実務者会議における1回当たりの平均事例数は74例、会議の平均時間は2.1時間であった。

表2-8-3-1 実務者会議における1回当たりの検討事例数

区分	例数
10件以下	1
11～30件	5
31～50件	2
51～70件	0
71件～90件	0
91～110件	1
111～130件	1
131～150件	0
151件以上	3
計	13

**平均 74 例**  
**中央値 35 例**

表2-8-3-2 実務者会議1回当たりの時間

区分	例数	構成割合
0.5時間未満	0	0.0%
0.5～1時間未満	0	0.0%
1～2時間未満	0	0.0%
2～3時間未満	12	92.3%
3～4時間未満	1	7.7%
4時間以上	0	0.0%
計	13	100.0%

**平均 2.1 時間**  
**中央値 2 時間**

- ④ 重症事例発生地域における要保護児童対策地域協議会の活用状況  
重症事例の発生した地域における要保護児童対策地域協議会の活用状況について、「よく活用している」が6例、「ある程度活用している」が5例であった。

表2-8-4 重症事例発生地域における要保護児童対策地域協議会の活用状況

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
よく活用している	6
ある程度活用している	5
あまり活用していない	2
ほとんど活用していない	0
計	13

- ⑤ 要保護児童対策地域協議会における本事例の検討状況（重症に至った本事例の発覚前に限る）  
要保護児童対策地域協議会における受傷前の本事例の検討状況については、検討「あり」が4例、「なし」が9例であった。検討「あり」の事例の内訳は、全例で「要保護児童」であった。

表2-8-5 要保護児童対策地域協議会における本事例についての検討状況（受傷前）

区分		心中未遂以外の重症の虐待
		例数
あり		4
内訳 (再掲)	要保護児童	4
	要支援児童	0
	特定妊婦	0
	その他	0
なし		9
計		13

## (9) 重症となった受傷後の対応状況

### ① 本事例に関する受傷の情報の入手先

各事例に関する受傷の情報の入手先（複数回答）について、9例が「医療機関」から情報を入手していた。

表2-9-1 本事例に関する受傷の情報の入手先（複数回答）

区分	心中未遂以外の重症の虐待(13例)
	例数
医療機関	9
警察	0
報道	0
家族	3
その他	2

### ② 本事例に関する行政機関内部における検証の実施状況

各事例に関する行政機関内部における検証の実施状況について、「実施した」事例6例であった。

表2-9-2 本事例に関する行政機関内部における検証の実施状況

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
実施した	6
実施していない	7
実施中	0
計	13

- ③ 本事例に関する第三者による検証の実施状況  
 第三者による本事例についての検証の実施状況について、「実施した」事例は2例であり、「実施中」の事例はなかった。

表2-9-3 本事例に関する第三者による検証の実施状況

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
実施した	2
実施していない	11
実施中	0
計	13

- ④ 本事例において危機感を持つべきだったと思われる時期  
 各関係地方公共団体職員が各事例において危機感を持つべきだったと思われる時期について、事例発生の「半年以上」前が5例であった。

表2-9-4 本事例において危機感を持つべきだったと思われる時期

区分	心中未遂以外の重症の虐待(13例)
	例数
1週間未満	2
1週間～1か月未満	2
1か月～3か月未満	1
3か月～半年未満	3
半年以上	5
小計	13
不明	0
計	13

⑤ 医療機関への入院の有無及び一時保護委託の有無

10人が重症となった受傷後に医療機関へ入院しており、対応した診療科は「小児科」が3人であった。また、6人が医療機関へ一時保護委託をされている。

表2-9-5-1 医療機関への入院の有無

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
入院あり	10
入院なし	3
計	13

表2-9-5-2 対応した診療科（複数回答）

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
ICU(NICUが満床)	1
脳外科	2
小児脳神経外科	1
総合診療科	1
小児科	3
脳神経外科	1
産科	2
精神科	1
集中治療部	1
計	13

表2-9-5-3 医療機関における一時保護委託の有無

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	人数
あり	6
なし	4
計	10

⑥ 児童相談所の対応

ア 援助方針の内容

重症となった受傷後における児童相談所の援助方針の内容は、「継続指導」が7例、「施設入所措置」が4例、「児童福祉司指導」、「その他」がそれぞれ1例であった。

表2-9-6-1 児童相談所における本事例受理後当初の援助方針の内容

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
継続指導	7
児童福祉司指導	1
施設入所措置	4
里親委託	0
未定	0
その他	1
計	13

イ ケース終結の有無

重症となった受傷後の児童相談所の対応について、対応を「終結」した事例は6例であり、その理由として「養育状況が改善し安全が確認されたから」が3例、「支援体制が整ったから」が2例であった。

表2-9-6-2 ケース終結の有無

区分		心中未遂以外の重症の虐待
		例数
終結		6
内訳 (再掲)	養育状況が改善し安全が確認されたから	3
	支援体制が整ったから	2
	転居したから	1
	その他	0
終結していない		7
計		13

ウ 親権喪失・停止の申立て

重症となった受傷後に、親権喪失・停止の申立てを行った事例はなかった。

表 2-9-6-3 親権喪失の申立ての実施状況

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
申立てを行った	0
申立てを行っていない	13
計	13

表 2-9-6-4 親権停止の申立ての実施状況

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
申立てを行った	0
申立てを行っていない	13
計	13

⑦ 要保護児童対策地域協議会への登録状況

重症となった受傷後に、要保護児童対策地域協議会に「登録された」事例は10例であった。「登録していない」事例の理由は「一時保護中に転居が決定し、移管の手続き中」、「施設入所措置中」等であった。

また、登録後の主担当機関は全例で「児童相談所」であった。

表2-9-7-1 要保護児童対策地域協議会への登録状況

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
登録された	10
登録していない	3
計	13

表2-9-7-2 要保護児童対策地域協議会に登録後の主担当機関

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
児童相談所	10
市町村担当課	0
福祉事務所	0
保健所	0
保健センター	0
その他	0
計	10

⑧ 関係機関の関与の状況

ア 受傷後半年時点における関与

重症となった受傷後半年時点での関係機関の関与について、13例全てで関係機関の関与がみられた。関与があった関係機関は、「児童相談所」が12例であり、次いで「市町村（虐待対応担当部署）」と「保健・医療機関」が6例、「児童福祉施設」と「警察」が4例であった。

表2-9-8-1 受傷後半年時点での関係機関の関与の有無

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
関与がある	13
関与がない	0
不明	0
計	13

表2-9-8-2 受傷後半年時点での関与があった関係機関（複数回答）

	区分	心中未遂以外の重症の虐待(13例)
		例数
関与機関 (受傷後半年)	児童相談所	12
	市町村(虐待対応担当部署)	6
	福祉事務所	1
	児童家庭支援センター	0
	児童福祉施設	4
	指定医療機関	1
	警察	4
	家庭裁判所	0
	保健・医療機関	6
	学校等	2
	里親	0
	配偶者暴力相談支援センター	0
	母子生活支援施設	1
	民間団体	0
	その他	0

イ 受傷後1年時点での関係機関の関与  
重症となった受傷後1年時点での関係機関の関与について、9例について関係機関の関与がみられた。関与「あり」の事例では「児童相談所」が関与している事例が7例であった。

表2-9-8-3 受傷後1年時点での関係機関の関与の有無

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
関与がある	9
関与がない	3
不明	1
計	13

表2-9-8-4 受傷後1年時点での関与があった関係機関（複数回答）

関与機関 (受傷後1年)	区分	心中未遂以外の重症の虐待(9例)
		例数
	児童相談所	7
	市町村(虐待対応担当部署)	3
	福祉事務所	0
	児童家庭支援センター	0
	児童福祉施設	4
	指定医療機関	1
	警察	1
	家庭裁判所	0
	保健・医療機関	4
	学校等	2
	里親	0
	配偶者暴力相談支援センター	0
	母子生活支援施設	0
	民間団体	0
	その他	0

⑨ 加害者と子どもの交流状況、自立の方針（調査票記入時点）

加害者と子どもの同居の有無について、「同居している」事例が7例、「同居していない」事例が6例であった。同居していない事例のうち、加害者と子どもの交流について、「交流している」事例が3例、「交流していない」事例が3例であった。

また、同居していない事例における自立の方針について、「分離」が3例、「家族再統合」が2例、「その他」が1例であった。

「家族再統合」の方針をとった2例は、いずれも家族再統合を前提としたプログラムを実施している事例であった。

表2-9-9-1 同居の有無

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
同居している	7
同居していない	6
計	13

表2-9-9-2 同居していない場合の加害者と子どもの交流の有無

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
交流している	3
交流していない	3
計	6

表2-9-9-3 同居していない場合の自立の方針

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
家族再統合	2
分離	3
その他	1
計	6

表2-9-9-4

家族再統合を前提としたプログラムの有無

区分	心中未遂以外の重症の虐待
	例数
行っている	2
行っていない	0
計	2